

和歌山県における地理空間情報の 利活用について

和歌山県 県土整備部

県土整備政策局 県土整備政策課

- 1 和歌山県における地理空間情報の利活用概要
- 2 オープンデータについて
- 3 和歌山県地理情報システムにおけるマップ例(抜粋)
- 4 GISを用いた活用事例について

※和歌山県地理情報システムは総務部行政企画局情報基盤課、和歌山県防災アプリは危機管理部危機管理局防災企画課が運用しています。

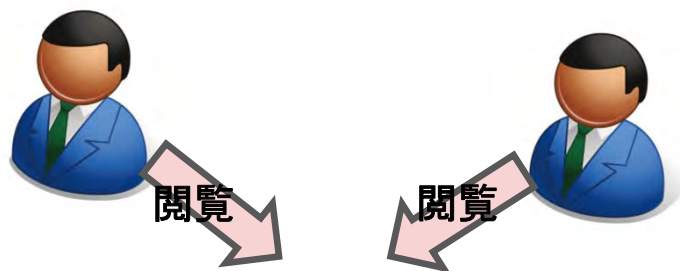
1. 和歌山県における地理空間情報の利活用概要

和歌山県地理情報システムによる利活用

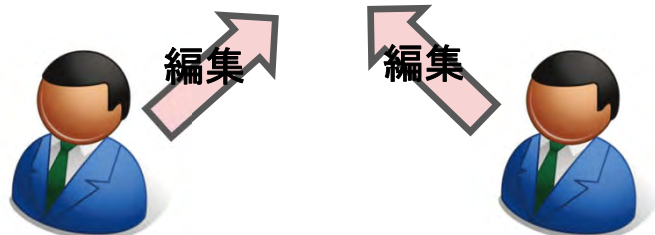
1. 地図情報を関連部署と共有
3. オープンデータ

2. 地図の情報公開

庁内システム



地理情報システム(庁内向け)



インターネット

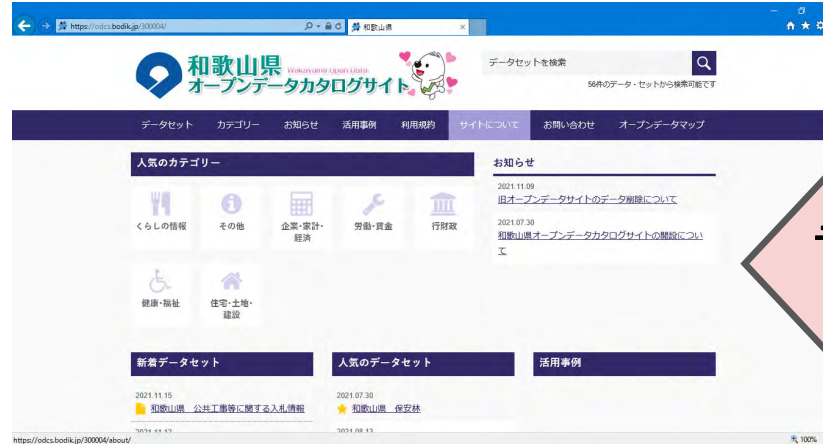
地理情報システム(庁外向け)



閲覧

公開

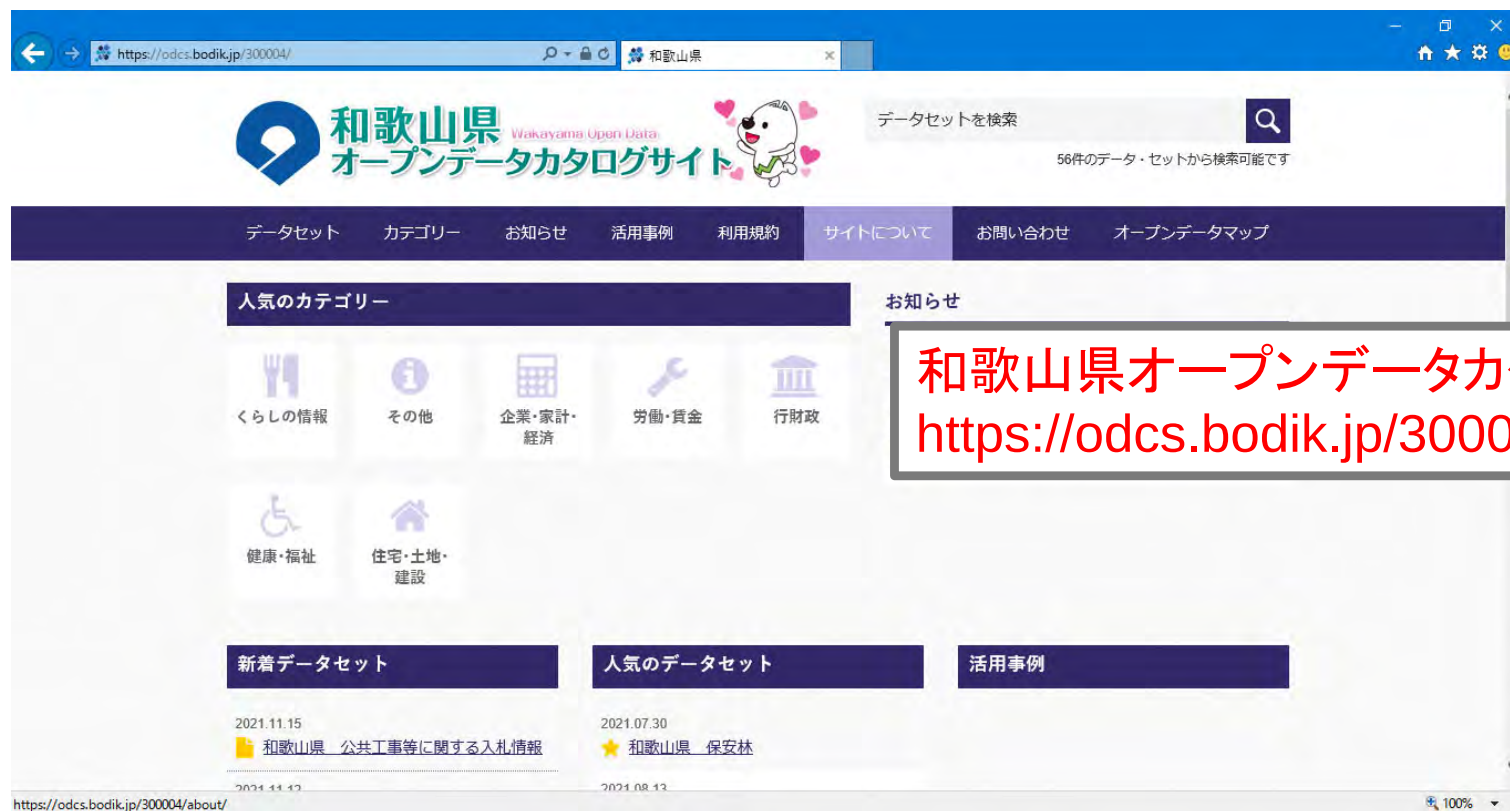
和歌山県オープンデータカタログサイト



データ
利用

2. オープンデータ

和歌山県地理情報システムで公開している地理情報を和歌山県オープンデータカタログサイトからダウンロード可。



BODIK ODCSとは

- 地方自治体がオープンデータを公開するためのデータカタログサイト
- 339自治体(15府県、324市町村)が利用(R7.12.4現在)
- プラットフォームとしてCKANを利用。CKAN APIを利用してオープンデータにWeb API経由でアクセス可能

2. オープンデータ

和歌山県オープンデータカタログサイト

データセットを検索

56件のデータセットから検索可能です

データセット カテゴリー お知らせ 活用事例 利用規約 サイトについて お問い合わせ オープンデータマップ

和歌山県地価調査・地価公示調査

組織

和歌山県
和歌山県のオープンデータ・カタログサイトです もっと読む

ソーシャル

Google+ Twitter Facebook

データセット グループ

和歌山県地価調査・地価公示調査

和歌山県地価調査の調査地点（基準地）と地価公示の調査地点（標準地）のうち和歌山県内に所在する地点の価格データです。地価調査基準地の価格は、毎年7月1日現在の1平方メートル当たり単価（林地については10アール当たり単価）です。また、地価公示標準地の価格は、毎年1月1日現在の1平方メートル当たり単価です。地価調査・地価公示とともに平成21年以降の調査地点のみを掲載しています。

データとリソース

- 和歌山県地価調査・地価公示調査 地図表示
和歌山県地価調査・地価公示調査 地図表示
- 和歌山県地価調査（平成5年～）CSVファイル
和歌山県地価調査（平成5年～）CSVファイル
- 和歌山県地価調査（平成5年～）シェープファイル
和歌山県地価調査（平成5年～）シェープファイル
- 和歌山県地価調査（平成5年～）KMLファイル
和歌山県地価調査（平成5年～）KMLファイル
- 和歌山県地価調査（平成5年～）GeoJSONファイル
和歌山県地価調査（平成5年～）GeoJSONファイル

和歌山県地理情報システムへリンク

地理情報を用途に応じた形式
でダウンロード可能

- ・緯度経度を含むCSV
- ・シェープ
- ・KML
- ・GeoJSON

3. 地理情報システム例①

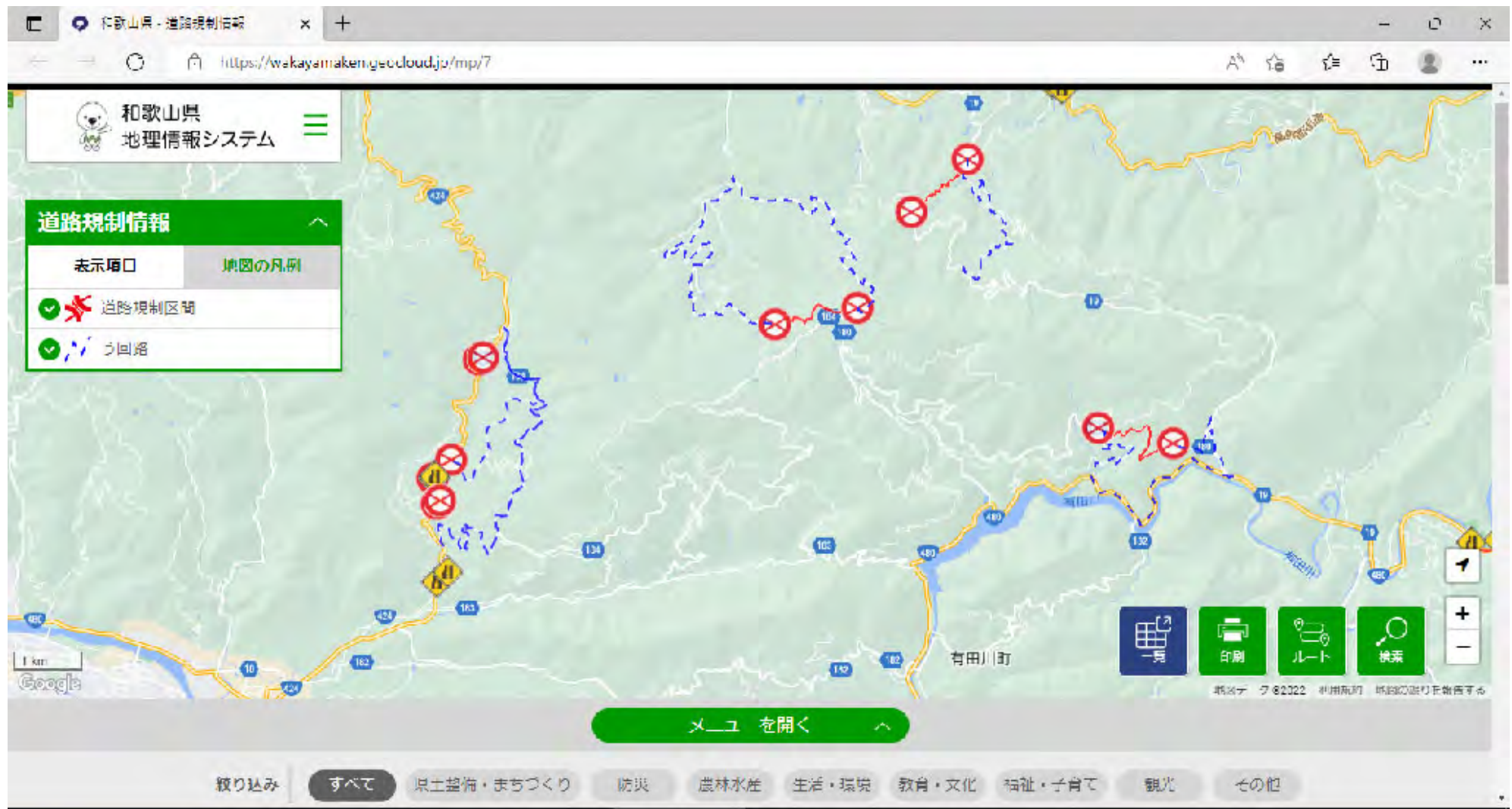
福祉のまちづくりマップ



県内の障害者、高齢者等が安全かつ円滑に利用できるよう配慮された施設(官公庁舎、文化施設、医療施設、大規模小売店舗、金融機関・郵便局、宿泊施設、鉄道駅)の概要、整備状況(車椅子対応設備やオストメイト設備の有無)、位置など、身体の不自由な方々が街に出かける際に参考になる情報を掲載しています。

3. 地理情報システム例②

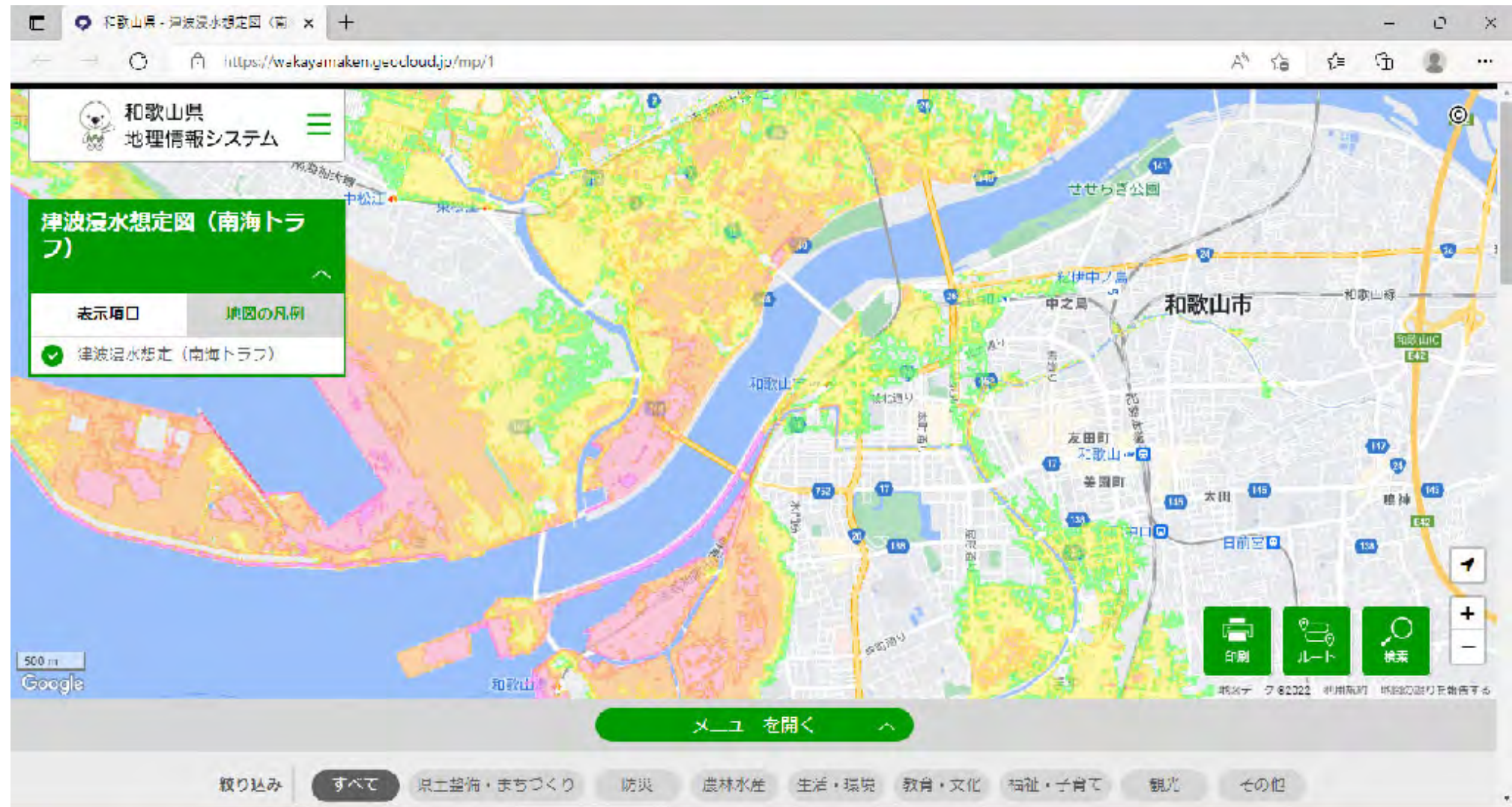
道路規制情報



一般国道及び県道の和歌山県管理区間及び市町村管理道路において行われる道路規制情報です。

3. 地理情報システム例③

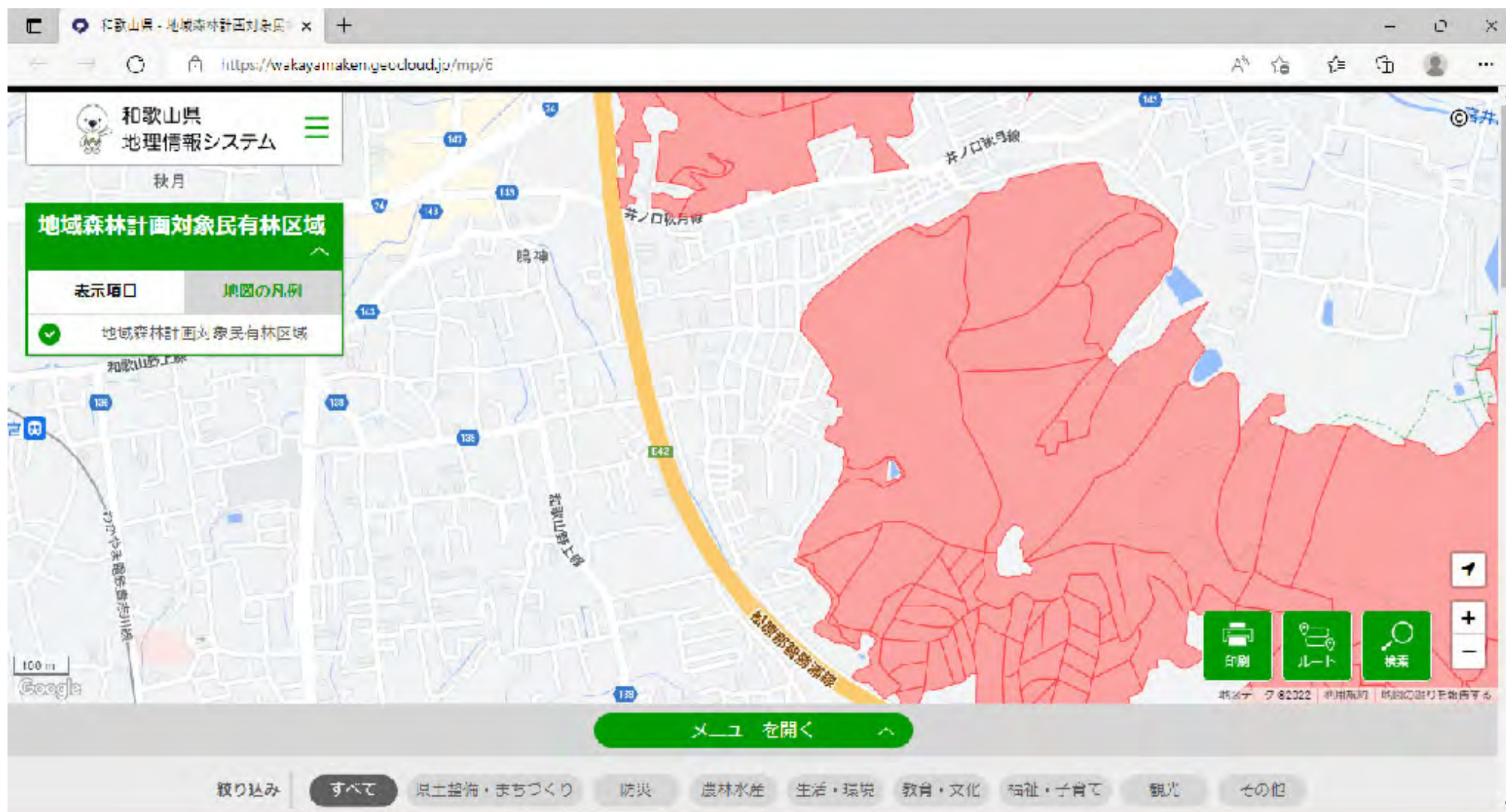
津波浸水想定図(南海トラフ)



南海トラフの巨大地震等に係る津波浸水・地震被害想定を実施するにあたり、地震・津波防災対策の専門家から、科学的知見に基づいた助言をいただくために「和歌山県地震・津波被害想定検討委員会」(以下「委員会」という。)を平成24年4月に設置して検討を行い、委員会での意見を参考に作成した浸水想定図です。

3. 地理情報システム例④

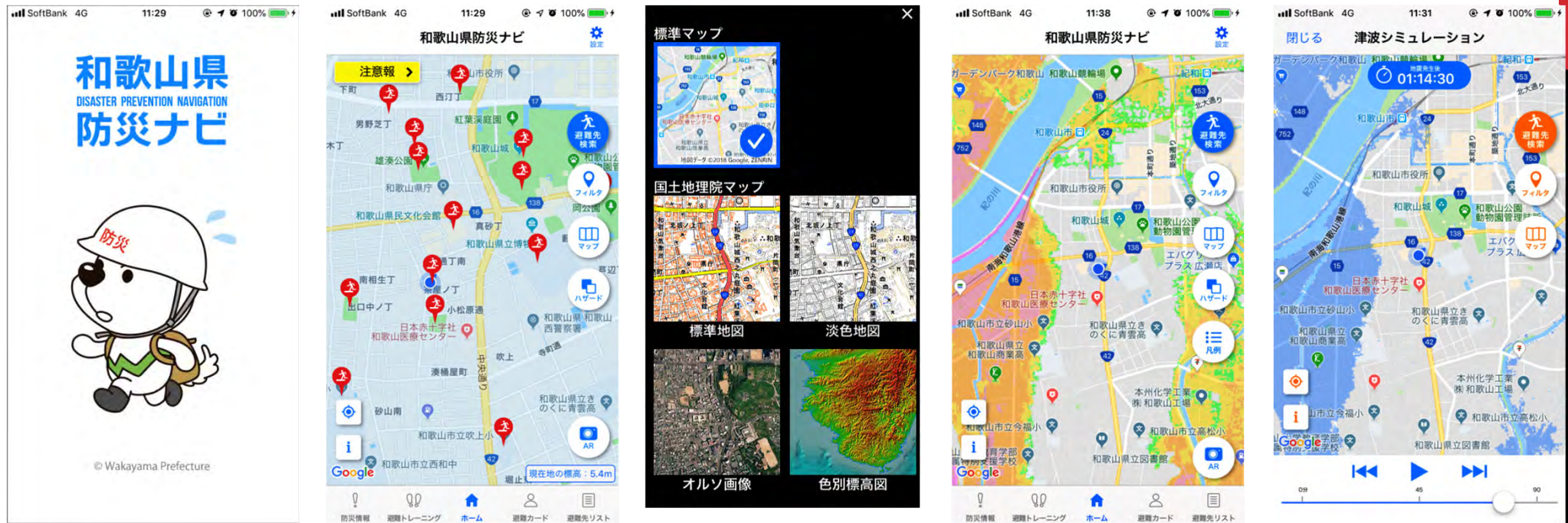
地域森林計画対象民有林区域



森林法第5条に基づき、知事が作成する地域森林計画の対象となる森林の区域です。

4. GISを用いた活用事例について①

和歌山県防災ナビ(アプリストアで公開)

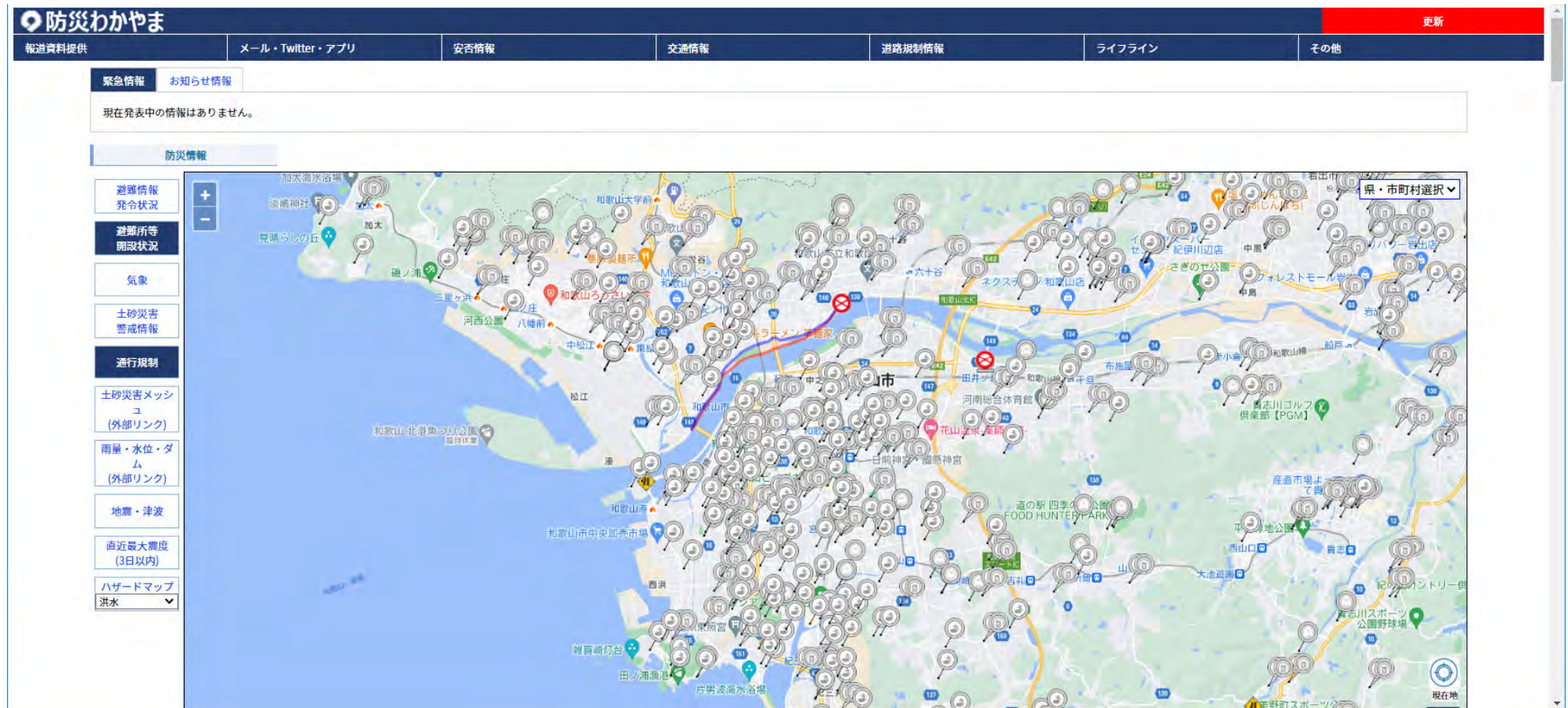


県民一人ひとりの安全な避難を促進するため、避難に役立つ機能を備えたスマートフォン向けの防災ポータルアプリを平成30年5月から配信しています。

- ・ 災害種別に応じて近くの避難先を検索でき、避難先までの最短ルートを表示
- ・ ベースマップは、状況に応じ切り替えが可能
- ・ 浸水想定など、各種ハザード情報の表示
- ・ 津波シミュレーションでは、どの場所がどのくらいの時間で浸水するのか確認できる
- ・ 地図情報以外にも、防災情報等のプッシュ通知や現在地共有機能及び避難カード機能を実装

4. GISを用いた活用事例について②

防災わかやま(HP)



気象情報、避難情報等発令情報、避難所開設情報及び道路規制等の各種情報をWEBで公開しています。

- ・ 県及び県内全市町村が登録した情報をリアルタイムで反映
- ・ 平常時にも、避難場所やハザードマップを表示し、災害への備えの確認が可能

京都市における 地理空間情報の取組について



京都市

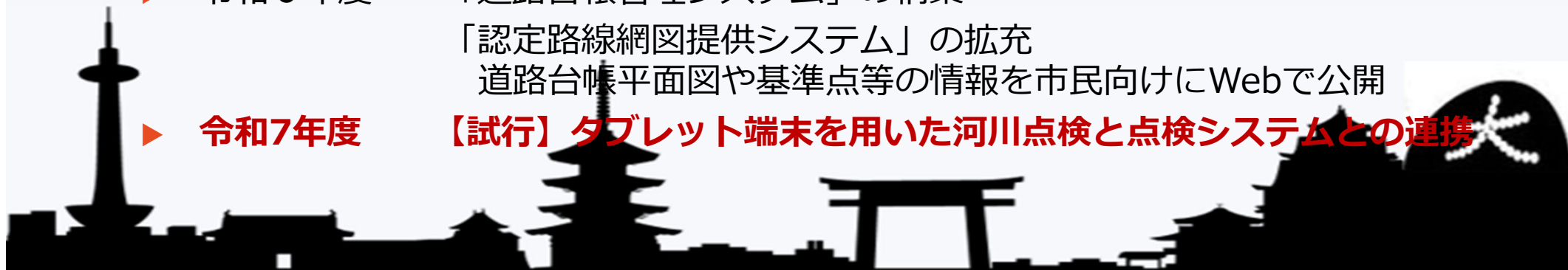
建設局監理検査課技術管理第二担当



京都市公共物GISについて

経過

- ▶ 平成17年度 「京都市公共物GIS」導入
国から譲与された里道・水路等の管理業務
導入以降も機能の追加・改修等
路線図管理、工事の進行管理、占用許可、市民要望、基準点情報
管理等の業務で活用
- ▶ 平成29年度～平成31年度 システムの再構築
- ▶ 令和2年度 「認定路線網図提供システム」等の構築
「京都市都市計画情報等検索ポータルサイト」公開
京都市の認定道路や都市計画情報等をWebで公開
「みっけ隊」アプリとの連携
市民が道路や公園等の損傷箇所を投稿できるアプリ
- ▶ 令和5年度 タブレット端末を用いた道路附属物や公園施設の
点検システムとの連携
- ▶ 令和6年度 「道路台帳管理システム」の構築
「認定路線網図提供システム」の拡充
道路台帳平面図や基準点等の情報を市民向けにWebで公開
- ▶ 令和7年度 **【試行】タブレット端末を用いた河川点検と点検システムとの連携**



京都市公共物 G I S と 点検システムとの自動連携について

河川点検箇所(point inspection)の点検業務を効率化するために

- (1) 台帳情報の電子化→G I S に登録
- (2) タブレット端末による点検システムの構築
- (3) G I S システムと点検システムの自動連携
- (4) 導入のメリット
- (5) 今後(令和8年度)の予定



京都市公共物 G I S と 点検システムとの自動連携について

(1) 台帳情報の電子化→G I S に登録

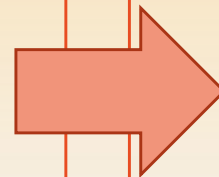
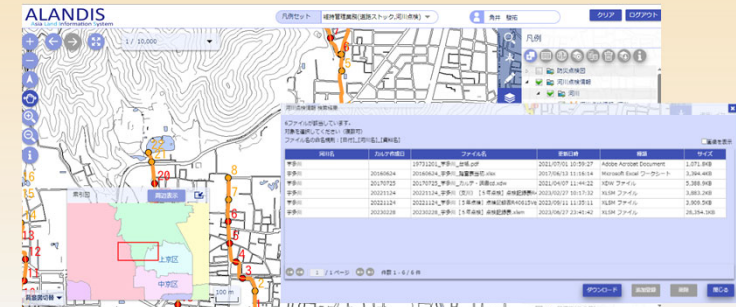
従前の運用

施設の維持管理を担当する部署で
台帳（excelデータ）によって点検
箇所及び点検数を個別に管理して
いた。



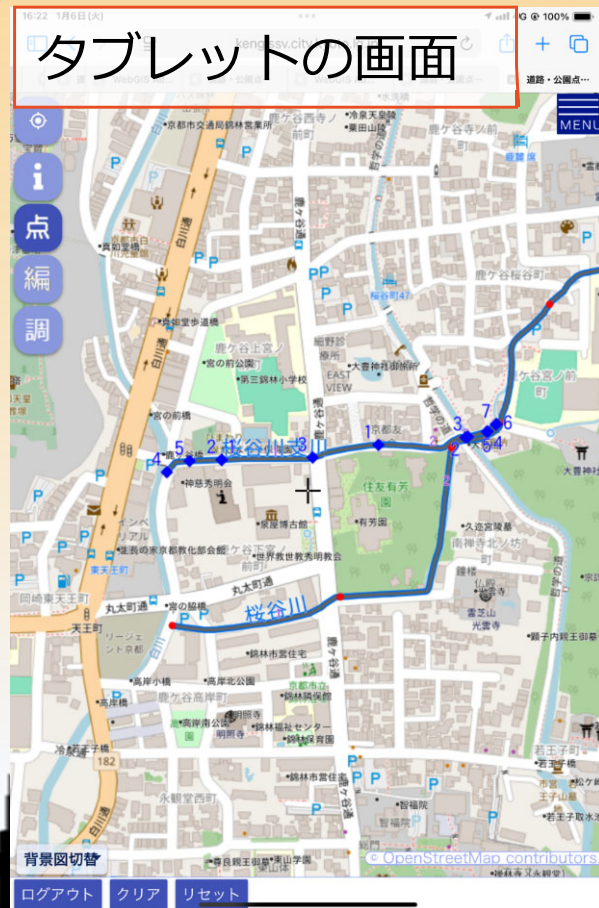
統合管理

台帳のデータを G I S で位置情報
と紐づけ統合的に管理。
→ 情報の管理を効率化



京都市公共物GISと 点検システムとの自動連携について

(2) タブレット端末による点検システムの構築



入力画面

2025/12/17

今回評価 b 前回評価 b

■基本情報

河川名	桜谷川支川	距離程
区間番号	1	前回点検日 2025/12/17
箇所番号	1	今回点検日 2025/12/17
補修完了		点検者 あいう

■点検内容

① 箇所	護岸 (左岸)	護岸 (右岸)	河道	暗渠	その他
② 構造物の種類	石積護岸				
③ 注意事項	はらみなし				
④ 状況1	崩壊の可能性あり				
④ 状況2	コケ・ワサビ等の発生				
④ 状況3	背後地陥没				
幅・奥行	高さ・深さ				
コメント					

■記録写真

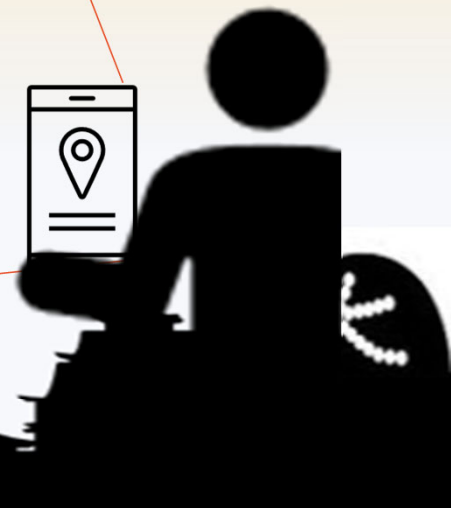
撮影済みの写真を登録する

◆全景

カメラアイコン

特の追加
消去

タッチすると
「撮影」した
写真を投稿可能



京都市公共物GISと 点検システムとの自動連携について

(2) タブレット端末による点検システムの構築

16:33 1月6日(火) kengissv.city.kyoto.lg.jp

閲覧モードです
操作できません
2021/11/24

河川名	明神川	距離程	
区間番号	16	前回点検日	2021/11/24
箇所番号	1	今回点検日	2021/11/24
☐ 補修完了		点検者	西田

■点検内容

①箇所	護岸(左岸)	護岸(右岸)	河道	暗渠	その他
②構造物の種類	石積護岸				
③注意事項	護岸材流出等の変状				
④状況1	護岸材料が流出している				
④状況2	護岸が一部崩壊している				
④状況3	背後地は人家等(接している)				
幅・奥行	0.4	高さ・深さ		延長	1.5
コメント	遠景				

■記録写真 ☐ 撮影済みの写真を登録する

点検項目を判定し、所見を入力

16:33 1月6日(火) kengissv.city.kyoto.lg.jp

閲覧モードです
操作できません
2021/11/24

今回評価 d 前回評価 d

■記録写真 ☐ 撮影済みの写真を登録する

◆全景



枠の追加
消去

◆全景2



消去

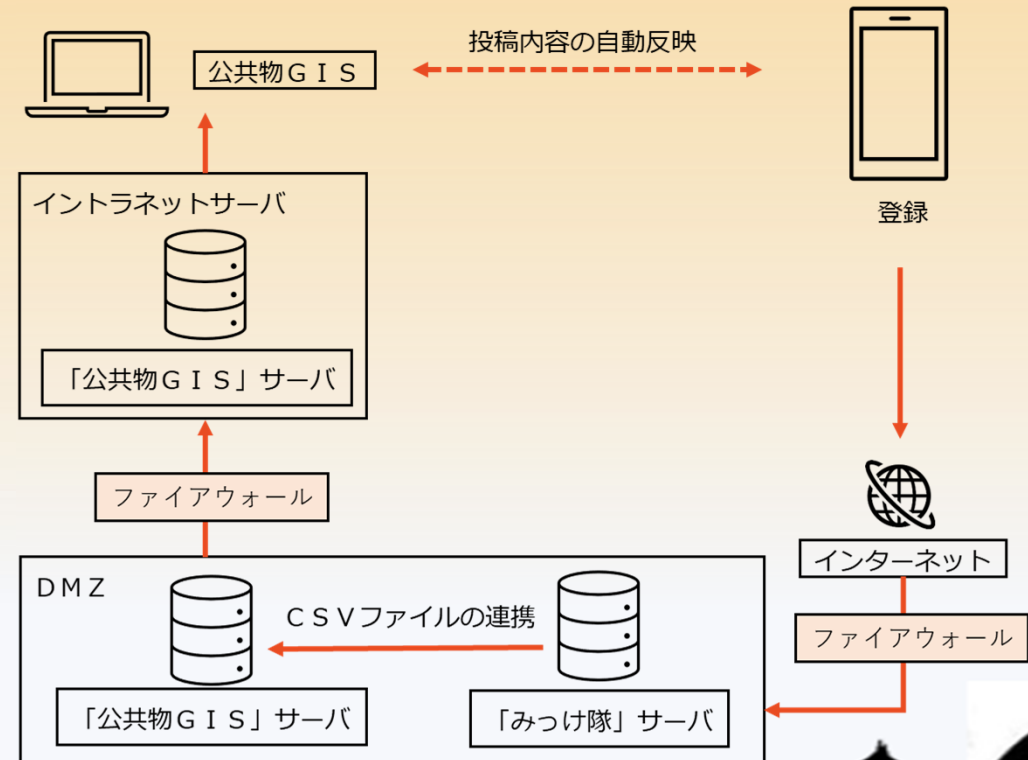
点検システムのタブレット画面

京都市公共物GISと 点検システムとの自動連携について

(3) GISシステムと点検システムの自動連携

類似の事例

令和2年度から、
道路や公園等の損傷箇所を
市民が投稿できる
外部アプリ「みっけ隊」と
公共物GISを連携させ、
アプリへの投稿内容を
GISに自動で反映している。



京都市公共物GISと 点検システムとの自動連携について

(3) GISシステムと点検システムの自動連携

公共物GISと点検システムのデータ連携は、双方向に行っている。

外向きの連携»

公共物GISで入力された施設データを点検システムに反映
→ **毎日深夜（業務時間外）に実行**

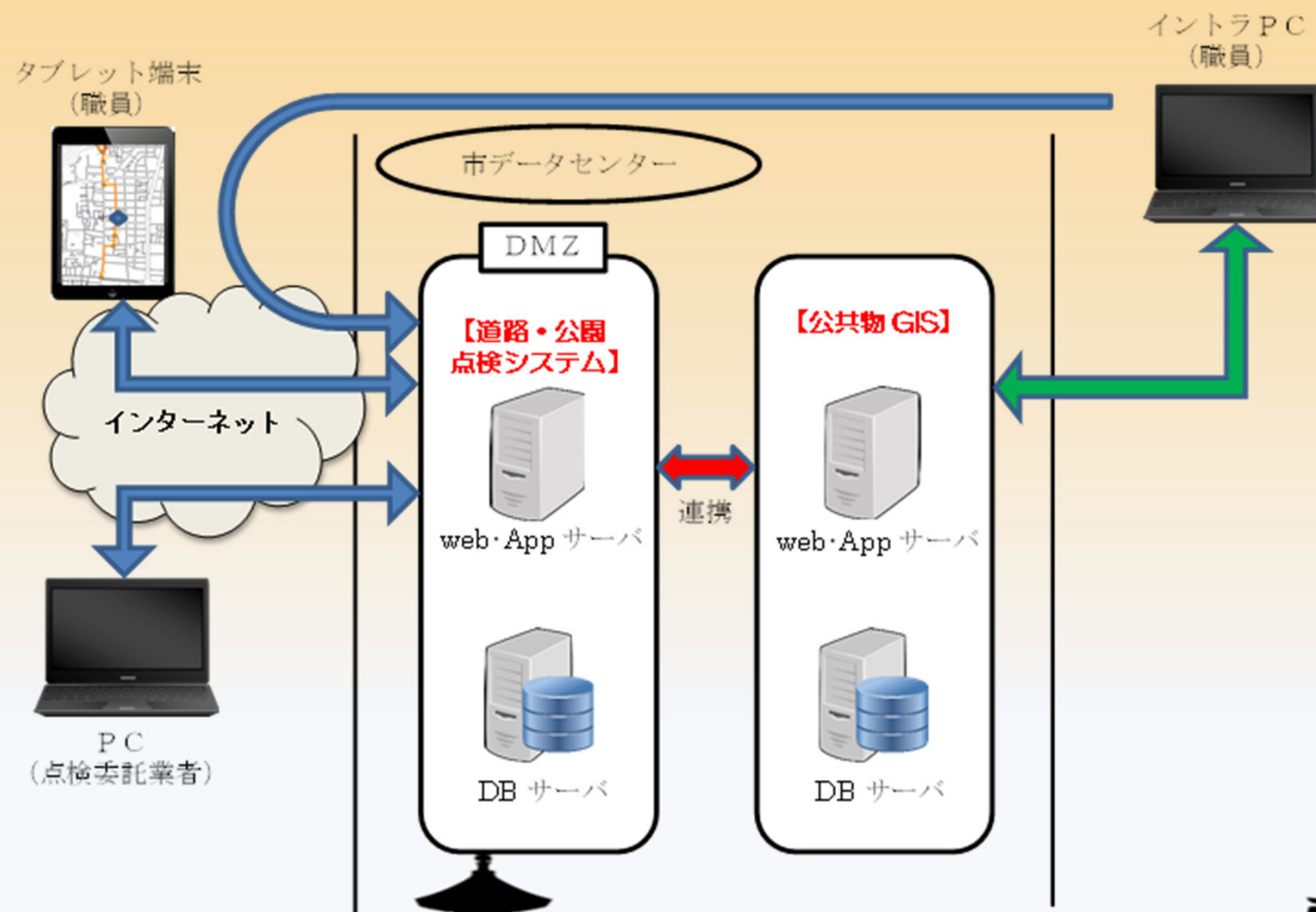
内向きの連携»

点検システムで入力された点検結果を公共物GISに反映
→ **10分おきに実行（リアルタイム更新に近づける。）**



京都市公共物GISと 点検システムとの自動連携について

(3) GISシステムと点検システムの自動連携



京都市公共物GISと 点検システムとの自動連携について

(4) 導入のメリット

業務の効率化

- ・ 準備・事後処理の「ゼロ化」

住宅地図のコピーや書類の事前準備が不要に。
現場入力で完結するため、帰庁後の事務作業がなくなる。

- ・ GPSナビゲーション

入り組んだ地形でも、GPSにより点検対象を特定。「探す時間」を削減し、経験の浅い職員でも効率的に作業できる。



京都市公共物GISと 点検システムとの自動連携について

(4) 導入のメリット

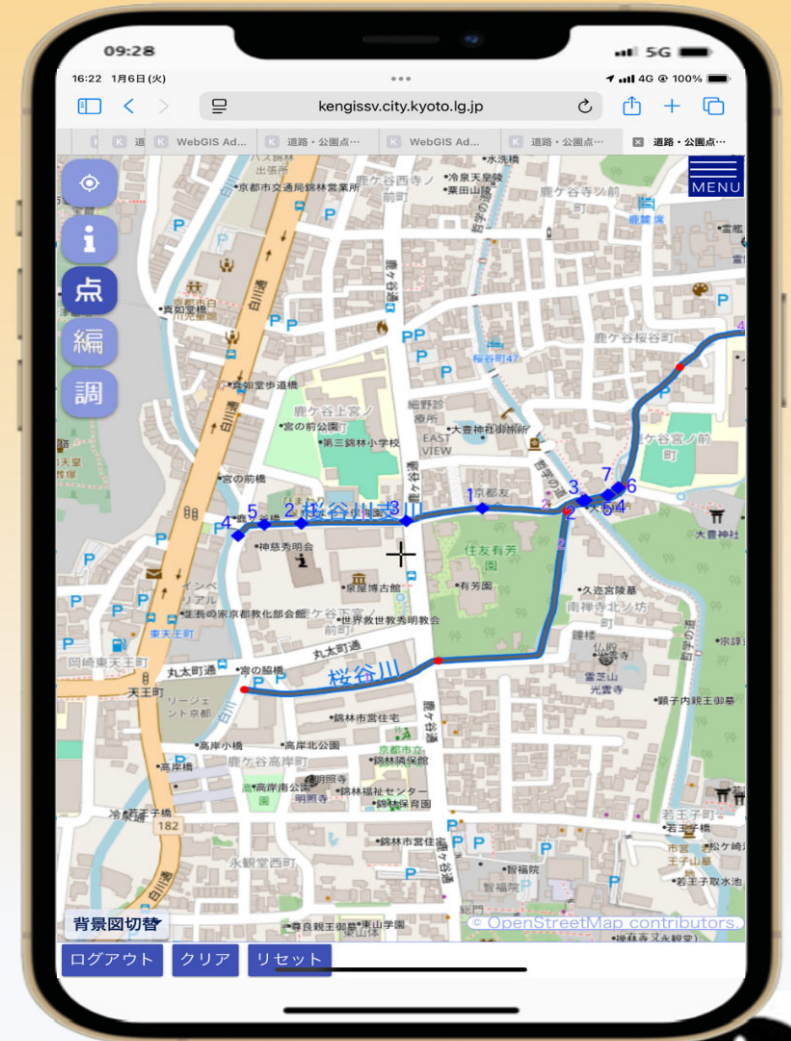
データの品質と信頼性の向上

- ・入力フォームの統一

必須項目のチェックや選択肢入力を必須にすることで、入力漏れ等を防止し、完全なデータを蓄積する。

- ・リアルタイムの進捗可視化

地図上で点検済み箇所がリアルタイムに色分け表示されるため、作業の取りこぼしを防ぐ。



京都市公共物GISと 点検システムとの自動連携について

(5) 今後(令和8年度)の予定

- ・ 河川点検タブレット連携システムの本格運用
- ・ 都市公園台帳点検タブレット連携システムの試行運用



地理空間情報の利活用 大阪市の取り組み



計画調整局 企画振興部 統計調査担当

【地理空間情報の利活用促進】_統合型GIS

大阪市統合型GISでは、『全庁的な地図活用業務の共通業務基盤（庁内向けGIS）』と『市民向け地図活用基盤（市民向けGIS（大阪市地理情報システム「マップナビおおさか」））』を連携し、電子地図上に分かりやすく行政情報を掲載し情報共有を図っている。

統合型GIS

市民向けGIS
(マップナビおおさか)

市民向けGIS
DB

庁内向けGIS

庁内向けGIS
DB

連携

市民・事業者



都市計画情報、防災情報、統計情報、地形図、航空写真などの電子地図を公開

大阪市職員のみ

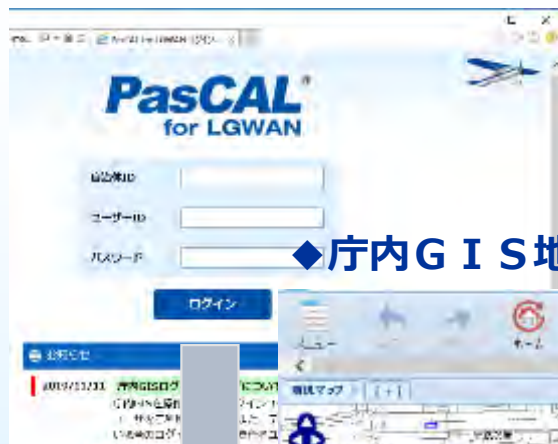


地図活用業務に利用

【地理空間情報の利活用促進】_庁内向けGIS

庁内端末からログインすることにより、庁内横断的に利用できる地図活用業務の共通業務基盤で、大阪市地形図・航空写真・住宅地図などを背景地図として、都市計画情報、統計情報等、様々な業務コンテンツ（レイヤ）を重ね合わせて、業務用の電子地図（デジタルマップ）を作成・編集することができる。

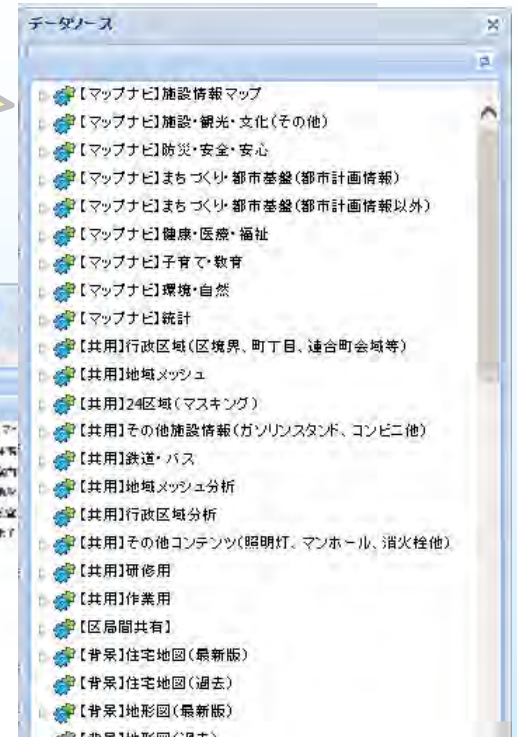
◆ログイン画面



◆庁内GIS地図表示画面

共用できる様々な業務コンテンツが庁内GISデータソースに保管されている

◆庁内GISデータソース (データ保管場所)



※所属毎にアカウント設定されている。

【地理空間情報の利活用促進】_市民向けGIS (マップナビおおさか)

インターネットを活用して市民や企業に対して、電子地図による大阪市の情報発信を行うためのWebサイトで、P C版とスマホ版がある。庁内向けGISのデータを基にして、カテゴリ別に、施設情報マップ、都市計画情報マップ、防災情報マップ、統計情報マップ、白地図、航空写真、各区役所個別マップ等を公開している。

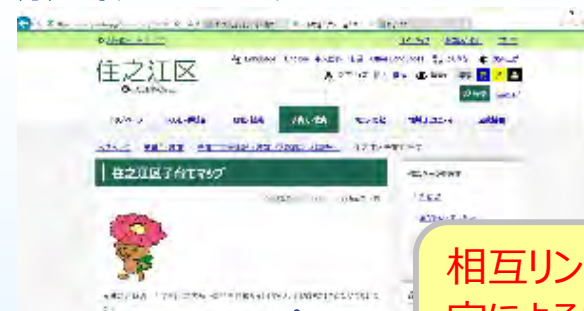
◆PC版 (ログイン不要)

<https://www.mapnavi.city.osaka.lg.jp/osakacity/Portal>



59マップ公開
(令和8年1月1日時点)

※大阪市ホームページ



※マップ画面



相互リンク設定による情報発信の強化

施設等シンボルをクリックすることにより、詳細情報を表示

◆スマホ版 (ログイン不要)

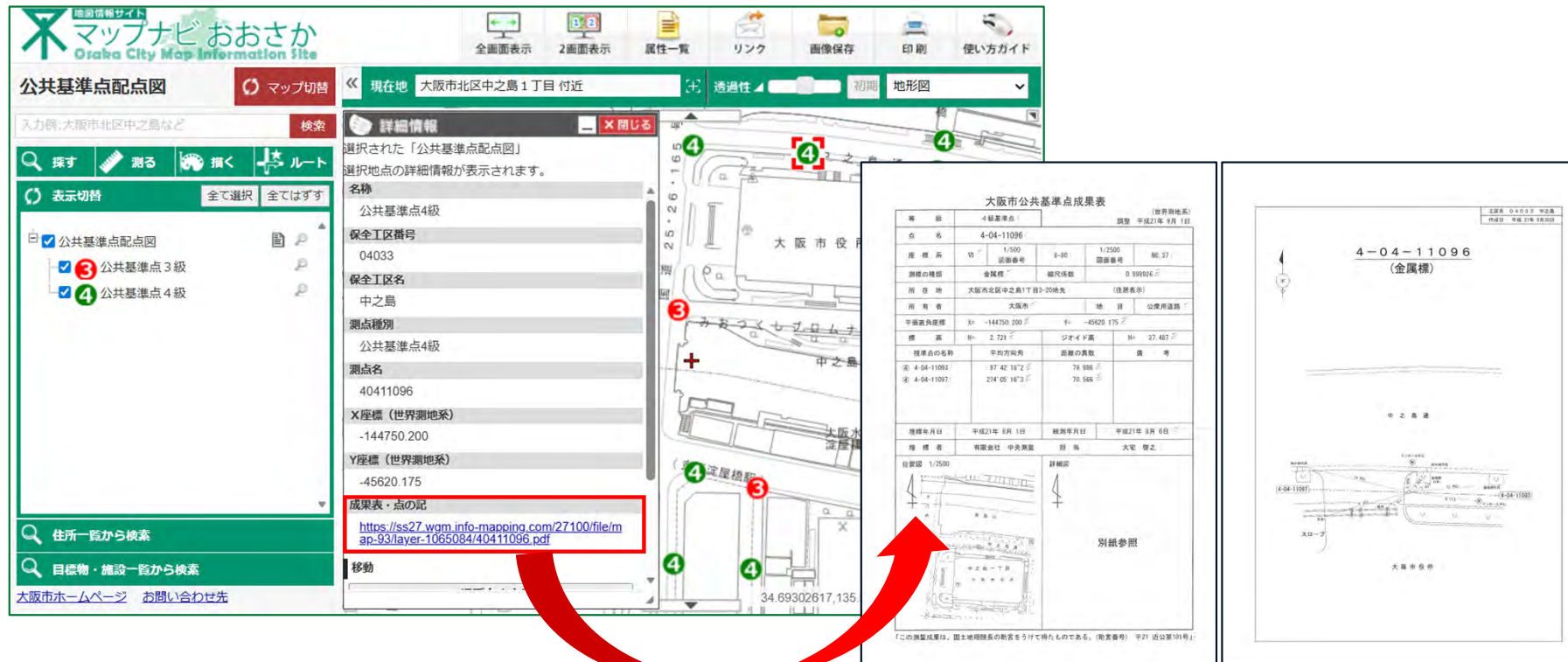
<https://www.mapnavi.city.osaka.lg.jp/osakacity-sp/>



スマホ版ではGPS位置情報を基にマップの位置選択が可能

【事例紹介】_統合型GISを使用した業務改善事例 公共基準点配点図

令和7年10月1日に統合型GIS（マップナビおおさか）の「公共基準点配点図」において成果表及び点の記を公開した。



取組前

- **基準点情報・成果表及び点の記は窓口での閲覧のみ**
 ※**謄本交付（紙媒体での資料提供）も実施。申請は窓口で実施し、
 交付も基本的には窓口で実施（発行手数料が必要、長くて1週間程度）。**



【事例紹介】_統合型GISを使用した業務改善事例 公共基準点配点図

市民視点

取組前

- ❗ 市役所の開庁時間しか閲覧できない
- ❗ 閲覧だけでも
窓口へ直接出向く必要あり



取組後

- ✓ ネットでいつでも閲覧可能
- ✓ ネットでどこでも閲覧可能
(GPS機能がついている場合、スマートフォンにて位置情報等も確認可能)



職員視点

取組前

- ❗ 閲覧及び謄本交付のため、窓口対応の負担が大きい



取組後

- ✓ 窓口での閲覧件数が減少
 - ✓ 謄本交付申請件数が激減
- ⇒電話問合せが増加したものの、窓口対応は減少



市民サービスの向上と窓口業務にかかる職員負担の軽減を実現！！

【地理空間情報の利活用促進】_利活用促進概要

「Web情報発信」と「人材育成」の2つを軸として、地理空間情報の利活用促進を行っている。

注目/認知

興味/訴求

検索/調査

利用/行動

共有/推奨

知ってもらう

使ってもらう

広めてもらう

情報発信

人材育成



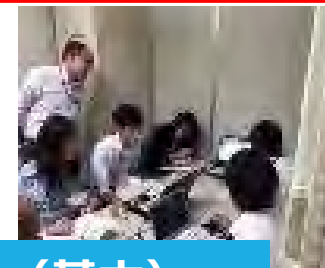
庁内向けGIS
ヘルプデスク
マニュアル・手順書



国土地理院
利活用講習会



全体研修会（基本）
個別出張研修会・相談会



全体研修会（応用）
ワークショップ

 : 今回ご紹介する内容

【地理空間情報の利活用促進】_統合型GIS全体研修会

統合型GISの人材育成の一環として、統合型GISの運用保守事業者のご協力により、GISの基本知識及び統合型GISの活用方法等について、本市職員を対象とした「統合型GIS全体研修会」を毎年開催している。統合型GIS全体研修会は、「基本操作研修」と「活用研修（ワークショップ）」で構成されている。

統合型GIS 人材育成

ヘルプデスクによるサポート

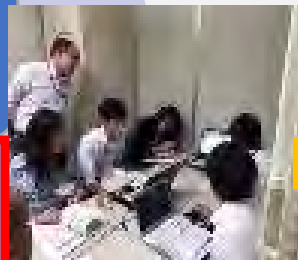
- 管理業務代行
- 操作支援
- 問合せ対応

個別相談会
(出張研修)

活用研修（ワークショップ）
※課題解決に必要な
実践的な技術や考え方を習得

基本操作研修

→ 統合型GIS全体研修会



GIS活用の
組織風土醸成

OJT教育などによる
利活用促進

全体認知度
基本スキル向上

【地理空間情報の利活用促進】_統合型GIS全体研修会

令和4年度より、統合型GISの活用をさらに促進するため、「活用研修（ワークショップ）」を実施している。「活用研修（ワークショップ）」は、「GISによるデータ分析」や「GISによるデータの見せ方」が主とした内容となっており、グループワークにて課題解決テーマに取り組むものである。

今年度は、「観光防災まちづくり」「健康長寿のまちづくり」「民泊共存のまちづくり」をテーマに、グループワークを実施した。



プレゼン風景



作成したマップ

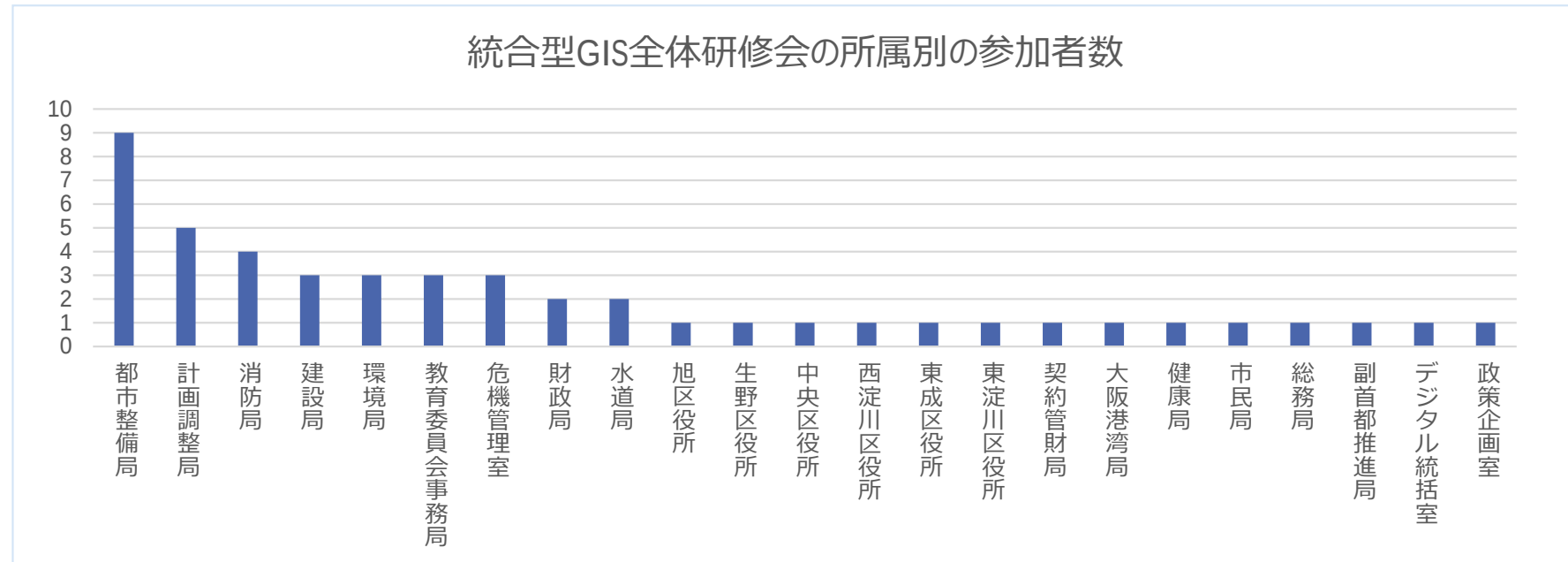
感想



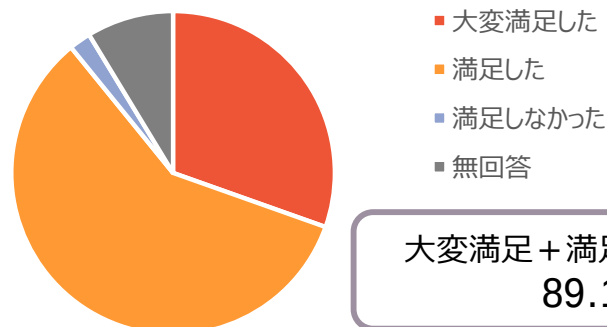
- 実際に課題に取り組むことで他の職員のみなさんから学ぶことも多く、非常に有意義な時間であった。
- 実地研修ということもあり、より多角的に学ぶことができました。
- 効果的なデータが多くあることがわかったので今後の業務でも活用していきたいと思いました。

【地理空間情報の利活用促進】_研修結果

「統合型GIS全体研修会」は様々な所属から参加いただいた。アンケートの結果、満足度は非常に高く、講習会で得た知識・ノウハウを具体的な業務で活用したいという声も多数あり、大変好評であった。



基本操作研修の満足度



活用研修（ワークショップ）の満足度

